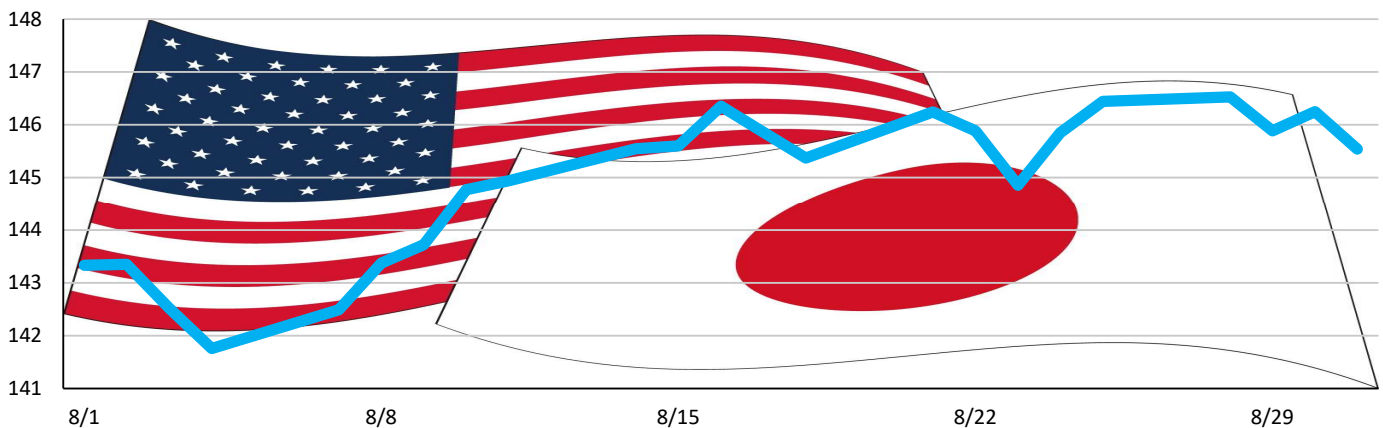


## MARKET REVIEW

**先月の振り返り：**8月のドル円相場は141円半ば～147円半ばで推移。米雇用統計後にドル安で反応したが、米消費者物価指数の結果を受けて追加利上げの可能性が高まり一転してドル高に。さらに米小売売上高も市場予想を上回ったことでドル買いが進み146円台半ばとなった。その後は、為替介入警戒感やジャクソンホール会合を控えて持ち合いの動きが続いたが、パウエル米FRB議長の講演で、必要なら追加利上げに動く用意がある、との発言をきっかけにドル買いが強まり約9ヵ月ぶりに147円台に達した。しかし月末の米消費者信頼感指数や米GDP改定値などが市場予想を下回ったことで、追加利上げ観測が後退し145円台半ばで8月を終えた。

(円) 米ドル円為替レート(終値ベース)



## EXTRA VISION

**今後の展開：**日米金融政策の方向性の違いが円安ドル高のベースとなっているため、当面の金融政策に変更がない限りは、この流れは続いていきそう。しかし、各国経済指標発表や要人の発言などを受けて、今後の金融政策をめぐって思惑的な動きがみられることを踏まえると、短期的には注意を払いたい。またドル円が150円台に近づくにつれて日銀による為替介入の可能性も高まってくるため、当局の動きにも警戒しつつポジションを構築していきたいところだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
9 / 21 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
9 / 22 (金)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
9 / 26 (火)	23 : 00	US	新築住宅販売件数	☆☆☆☆
9 / 28 (木)	21 : 30	US	米GDP確定値	☆☆☆☆
10 / 2 (月)	23 : 00	US	米ISM製造業景気指数	☆☆☆☆
10 / 6 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
10 / 12 (木)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。